

森林管理署長等が語る！

赤谷森林ふれあい推進センター

所長 栗田 喜則

【赤谷の森に帰ってきたぞ！】

昨年4月！赤谷森林ふれあい推進センター10年ぶり2回目の勤務になりました。

さっそく！関係機関へ挨拶回りを行ったところ、「おかえりなさい」と大勢の方にあたたかく迎えていただきました。感謝感謝です。(^^)

当時、自然再生指導官だったときに、一緒に汗をかいたみなかみ町の係長さんたちも課長等に役職が上がり、行く先々で懐かしい顔ぶれと当時の思い出話に花が咲きました。

【赤谷プロジェクトとは】

さて、当センターの業務のメインは、赤谷プロジェクトの運営です。赤谷プロジェクトとは何かというと！

2003年11月に発足した三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画（以下、「赤谷プロジェクト」という。）は、

「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」を実現するための取組です。

群馬県利根郡みなかみ町新治地区の国有林を中心とした約1万ha（以下、「赤谷の森」という。）を将来にわたってどのような森林にしていくのかを、地域住民で組織する「赤谷プロジェクト地域協議会」、

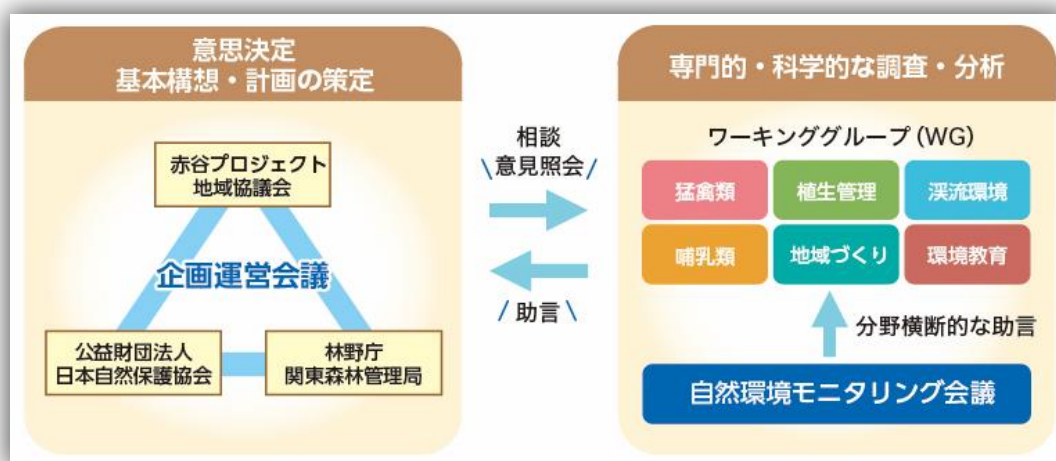
「日本自然保護協会」、舞台となる国有林を管理する

「林野庁関東森林管理局」の3つの中核団体が協働して、人と自然との新たな望ましい関係づくりと共生の姿を構築していくことを目的にしています。



赤谷プロジェクトの特徴は、①「赤谷の森」の管理・運営について、中核団体が「現在の森が将来どうなってほしいか」を話し合った上で、地域を重視した合意形成・意思決定を行い、地域管理経営計画等の公的な計画に反映させる仕組みが確立していること、②生物多様性に係る課題を反映するため、科学的取組を審議する「自然環境モニタリング会議」を常設し、普遍性を重視した管理体制が確立していること、③個別課題毎に専門家・実務担当者によるワーキンググループを設置し、多様な主体とともにモニタリングなどの活動を推進する実行体制が確立していることの3点に集約されます。

このような赤谷型の森林生態系管理の枠組みは、協定締結から現在までの3者協働による赤谷プロジェクト運営の中で、確立されています。

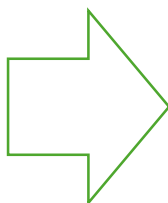


【10年が経ち・・・】

着任早々に、各試験地や現場の状況が、10年前とどのように変わっているか、精力的に赤谷の森の現状を見て回りました。当時膝丈だった植物も背丈を優に超える高さに成長し、月日の流れを実感しました。そこで、私にしかできないこととして、ここ10年間で自然の変化を様々な方に伝えることが使命と感じています。また、ニホンジカが赤谷の森でも増え、すでに低密度とは言えません。早急に対策を講じる必要があると考えています。



2013年試験地の説明している筆者



2022年の様子

小出俣スギ漸伐試験地：等高線に対し、水平・垂直に伐採幅列（幅20m、40m）、自然林からの距離、現在の人工林になる前の前世林の状況、光環境に着目し、条件の異なった伐区を複数設定。

【赤谷エリアの推し！美味しいもの】

赤谷エリア内のメインは、猿ヶ京温泉街ですが、当時よくいっていた食堂は、数件無くなっていました。しかし、山の奥にある知る人ぞ知る「姉山の家」は健在！さっそく入ってみました。少し太めのそばと山盛りの天ぷらがウリです。



R6年5月に開店したお店もありました。その名も「あかや食堂」赤谷プロジェクトの拠点である、いきもの村から川古温泉に向かう途中にあります。このお店は、定食と鉄板焼きのお店！個人的にヤマト豚の生姜焼き定食をよく注文します。ご飯のお替り無料です。昼時に行くと日本自然保護協会やみなかみネイチャーポジティブプロジェクトの皆様など赤谷プロジェクト関係者と一緒することも多々あります。



【赤谷エリアの推し！豊かな自然と歴史】

何回いっても新たな発見や神々しいブナ・ミズナラの巨木はブラボー！そこは、旧三国街道の三国峠越えコースです。樹齢200年を超えるブナ・ミズナラの森など4つのタイプの森の変化と、街道沿いの史跡から旧三国街道の歴史を楽しむコース。群馬県から新潟県へ抜ける片道ルートです。

特に毎年5月上旬～中旬頃に旧三国街道で見かけることができる、ラズベリーのようないきもの自然の造形美！これは、ブナに葉についた虫こぶ「ブナハアカゲタマフシ」といいます。三国権現～群馬県側東屋（三坂線分岐）の街道周辺で観察することができます。



ミズナラの前で解説をしている筆者

ブナハアカゲタマフシは、タマバエの一種によってブナの葉に形成された「虫こぶ」です。初めは表面に淡紅色の軟らかい毛が密生して毛玉状になります。成熟するにつれて赤褐色ないし茶褐色に変色し、木質化して堅くなります。虫こぶの内部には楕円体の幼虫室が1個あり、乳白色の幼虫が1匹入っています。



不思議なブナの虫こぶ。美味しい食べものに見えます。

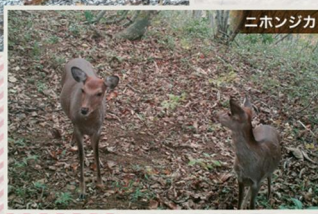
【赤谷の森・基本構想 2025】

2010年度に策定された初めての「赤谷の森・基本構想」（以下、「基本構想」という。）は、赤谷プロジェクトの基本的な考え方をとりまとめたものです。この基本構想は、「赤谷の森」を含む利根上流森林計画区の国有林の取扱いを定める新たな地域管理経営計画等に反映されました。以降、赤谷プロジェクトでは、5年ごとに「基本構想」の改定を行っています。令和6年度（2024）に20年間の成果と課題を踏まえて、「赤谷の森・基本構想2025」として改定しました。以下取組の概要です。

○赤谷の森の取組概要

「赤谷の森」は、多様な自然環境を形成し、猛禽類をはじめとする様々な野生動物の生息の場となっている一方で、薪炭材や木材の生産など人々に利用され、地域住民の生活と密接に関わってきた森林も存在しています。これらのことを踏まえて、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを通じて、新たな共生の姿の構築という目的を達成するために、主に次のような内容に取り組んでいきます。

- ・ 生物多様性の高い森林への誘導
- ・ 生物多様性保全と資源の循環的な利用との両立
- ・ 水源かん養機能の向上
- ・ 森林文化・景観を構成する場としての価値の共有
- ・ 野生動物との共存とニホンジカの低密度管理
- ・ 溪流環境の復元と生物多様性のあり方
- ・ 科学的なモニタリングと順応的管理
- ・ 周辺地域と一体となった生態系管理
- ・ 持続的な地域づくりの推進
- ・ モデル地域にふさわしい森林生態系の体系的な管理技術の集積と成果発信



取組の詳細については、当センターのホームページをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/-/akayanomori-kihonkousou2020.html

【個人的な山登り！谷川岳「西黒尾根ルート」登ったぞ！】

赤谷プロジェクトエリア内には、100 名山の「谷川岳」があります。

北アルプス烏帽子岳のブナ立尾根、南アルプス甲斐駒の黒戸尾根と並ぶ日本三大急登の一つ「谷川岳西黒尾根ルート」は、今まで登ったことがありませんでしたが、昨年10月に体を絞って、やっと登ることができました。(帰りは、天神尾根～ロープウェイ)しかし、紅葉時期で土日の谷川岳は、非常に混んでおり、天神平コースは、ロープウェイ乗り場から山頂まで登山者で繋がっています。帰りの天神平ロープウェイは、1～2時間待ちとなっています。この時期は、平日をお勧めします。



谷川岳をバックに筆者

【最後に】

10年前の当時と今を見極めながら、20周年を迎えた、赤谷プロジェクトのこれからを、しっかりと道筋を考えて、関係者の皆様との調整等を進めて行きたいと考えております。今後どうぞよろしくお願い致します。



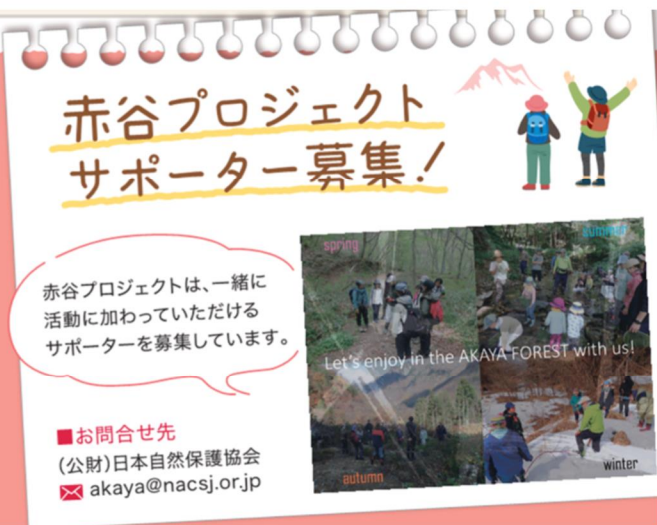
information

赤谷プロジェクト地域協議会
☎ 0278-25-8777

(公財) 日本自然保護協会
☎ 03-3553-4101

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター
☎ 0278-60-1272

赤谷プロジェクトに
ついでの情報満載！



**赤谷プロジェクト
サポーター募集！**

赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。

■お問合せ先
(公財)日本自然保護協会
✉ akaya@nacsj.or.jp

Let's enjoy in the AKAYA FOREST with us!

spring summer autumn winter